

科目名	マクロ経済学 II	科目分類	■専門科目群(第1グループ) □総合科目群(第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Macroeconomics II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である労働市場、総需要・総供給、インフレーション・デフレーションおよび失業について学習し、これらの知識を前提として「物価変動」を考慮した場合のマクロ経済政策効果を分析します。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基礎的な分析手法を習得できる。		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください。		
履修条件	マクロ経済学 I の知識を前提とします。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	物価と総需要 1(総需要曲線)		
第3回	物価と総需要 2(物価水準の変化および経済政策の効果)		
第4回	労働市場と総供給 1(古典派の総供給曲線)		
第5回	労働市場と総供給 2(ケインズ派の総供給曲線)		
第6回	AD-AS 分析 1(総需要・総供給と経済政策の有効性)		
第7回	AD-AS 分析 2(需要ショックと供給ショック)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	物価変動と失業の社会的費用 1(インフレーション)		
第10回	物価変動と失業の社会的費用 2(デフレーション)		
第11回	物価変動と失業の社会的費用 3(失業)		
第12回	フィリップス曲線 1(物価上昇率と失業率の相関関係)		
第13回	フィリップス曲線 2(期待で修正されたフィリップス曲線)		
第14回	フィリップス曲線 3(裁量的財政政策・金融政策の再評価)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学(第4版)」 岩波書店 (2017) ブランシャール 「マクロ経済学(下)」 東洋経済新報社 (1999) など		
成績評価	<p>【成績評価の方法】小テスト(20%)、定期試験(80%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 <p>【成績評価の基準】</p>		

	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
オフィスアワー	① 毎週月曜 3時限目 ②毎週木曜 2時限目
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。